

酒造好適米「雄町」の栽培ポイントについて

1 雄町とは

酒米のルーツと言われる「雄町」は、現存する酒造好適米の約2/3が系統を引き継いでいる。詳しくは、岡山県酒造組合の[HP](#)でご確認ください。

【6月28日の様子】



2 雄町の特徴

○大粒 ○心白の発現が良好 ○タンパク含量が低い
△草丈、稈長が長く、倒伏することも多い。

3 高品質な酒米の条件

酒造りは、「一麴（いちこうじ）」「二酛（にもと）」「三造り（さんつくり）」と言われるほど、麴の善し悪しが酒質に最も影響する。

そのため、酒米には、良い麴が作りやすい形質が求められる。

(1) 「心白」の発現が良好であること

心白を有する米は、浸漬時の吸水が早く、亀裂を生じやすく、麴を作るときのはぜ込みをよくするので麴米として好まれる。

(2) 「低タンパク」であること

タンパク質は、酒造りに大きく影響する要因の一つで、低タンパク質であることが求められる。タンパク質含量が多いと吸水性が低下したり、清酒中の窒素含量が高まり、アミノ酸度が高くなったり、着色や雑味が多くなる。

(3) 「大粒」で粒張り、粒揃いが良いこと

玄米千粒重は大きい方が、心白の発現や搗精歩留まりも良く、成分も良くなるため、粒張り、粒揃いが良いことが求められる。

4 栽培のポイント

以上のことが重要ではあるが、いずれも登熟期間の根の活力、根域の土壌養分の影響が大きいと考えられる。酒米は、高度精白されるので、「胴割れ米」が生じないように、適期収穫と適正な乾燥・調製が必要である。詳しく知りたい方は、別紙参照のこと。

5 雄町あれこれクイズ

(1) 10aに何株植えてあるか？

①5,000株 ②10,000株 ③15,000株

(2) 1株の穂数は？

①10本 ②15本 ③40本

(3) 1穂についている粳の粒数は？

①100粒 ②200粒 ③300粒

(4) 1000粒の米の重さは？

①26g ②66g ③136g

(5) 10aの平均収穫量は？

①240kg ②420kg ③900kg

たけべ米 栽培ごよみ

— 特別栽培米 雄町（レンゲ） —

たけべ特別栽培農産物研究会

◎特別栽培とは・・・◎

次の①と②の両方の条件を満たす栽培

- ①化学合成農薬の使用回数が慣行レベルの50%以下
- ②化学肥料の窒素成分量が慣行レベルの50%以下

	化学合成農薬 (延べ成分使用回数)	化学肥料 (窒素成分Kg/10a)
慣行レベル (雄町)	18	6
特別栽培米 (雄町)	9以下	3以下

◎栽培のポイント◎

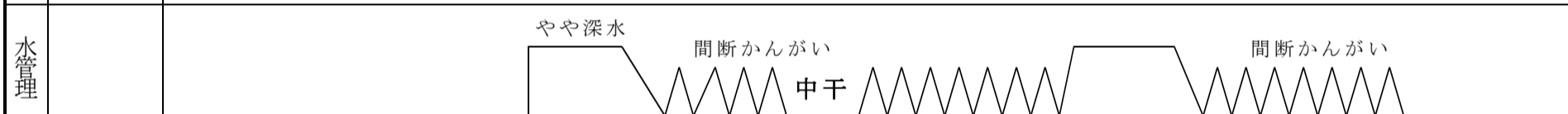
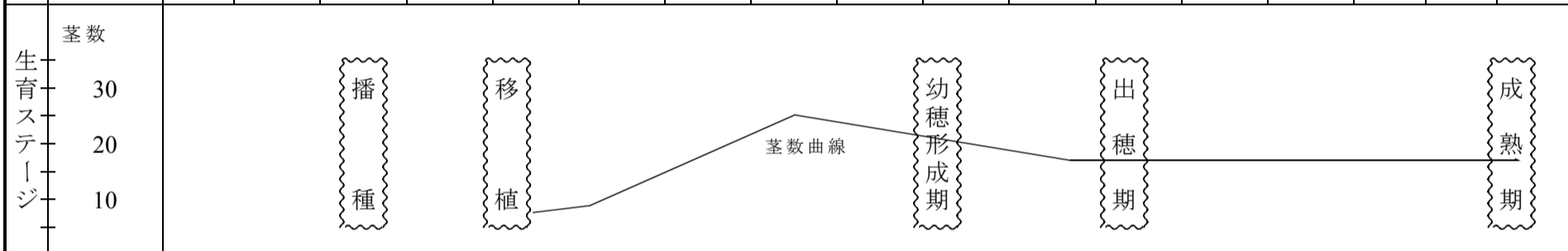
- ・日当たりが良く、排水良好な水田で栽培する。
- ・種子更新は、必ず行う。
- ・腰が低く、茎の太い健苗を育成する。
- ・ガスの発生に注意し、間断かんがいに努める。
- ・倒伏を防ぐため、中干しをしっかりと行なう。
- ・穂揃いを良くし、千粒重を高め、心白の発生を高める。
- ・適期収穫、適正乾燥により胴割れ米を防止する。

- ・特別栽培米生産ほ場には看板を立てましょう！
 - ・栽培管理日誌は確実に記入しましょう！！

【雄町特性表（農業試験場における成績）】

早晩性	出穂期 月/日	成熟期 月/日	稈長 cm	草型	いもち		白葉枯病	紋枯病	耐倒伏性	品質
					葉	穂				
晩	9/4	10/25	118	穂重	弱	中	中	弱	上	

月	5		6		7		8		9		10	
	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	



管理作業	① 種子消毒	② 育苗箱処理	③ 除草剤散布	穂肥	※病害虫防除	落	収
	種子準備	播種	基肥の施用	すき込み			水 穫

レンゲは種

防除体系	【例】								
	用途	薬剤名	希釈倍数及び使用量	使用時期	使用方法	対象病害虫	成分数	使用回数	
防除体系	①種子消毒	(温湯消毒)	—	浸種前	—	いもち病、ばか苗病、シカレセンチュウ等	0	—	
	②育苗処理	嵐プリンス箱粒剤10	50g/箱	播種前～移植当日	育苗箱の苗の上から均一に散布	いもち病、紋枯病、ウカ類、イネミスゾウムシ等	2	1	
	③除草剤	エーワン1キロ粒剤	1kg/10a	移植後5日～ 刈り3葉期 但し、移植後30日まで	湛水散布	水田1年生雑草、ウリカワ、ホタルイ等	2	1	
	※殺虫剤	スタークル粒剤	3kg/10a	収穫7日前まで	散布	ウカ類、ツマグロコハイ、ニカメイチュウ、カメムシ類等	1	1	
	※病害虫や雑草の発生状況に応じて薬剤を選択し、使用成分を9成分以下にすること。						5		
	追加防除・薬剤変更は、普及センター等へ相談ください。								

施肥体系	【例】 (kg/10a)					
			N	P	K	
施肥体系	基肥	レンゲ	2,000			
		菜種粕ペレット	30	1.6	0.6	0.3
		有機PK2号	30	0.3	3.0	3.0
	穂肥	有機653	30	1.8	1.7	1.1
	計		3.7	5.3	4.4	

※化学肥料使用量(窒素成分) 0kg

【施肥のポイント】

- 1 レンゲの生育量に応じて、すき込み時期を考慮する。
- 2 レンゲのすき込み量で、基肥(菜種粕)を加減する。
- 3 1穂の穂数が多くなると、品質(心白)が低下するので、施肥過剰とならないようにする。
- 4 追肥は、地力や生育状況、葉色に応じて、時期と量を加減する。穂肥は、出穂25日前に有機653 30kg/10aを施用する。